

水田農業を巡る情勢

令和8年3月17日
福島県水田農業産地づくり対策等推進会議

【令和7年産米の動向】

1. 相対取引価格（2月）

(1)全 国：相対取引価格は、高温障害や病虫害被害等を背景とした減収予測による昨年
から続く集荷競争激化により概算金が昨年より3割から7割程度高い価格で
設定されたこと等から、全銘柄平均**35,056円/60kg**対前年同月比+8,571円
(+32%)対前月▲409円、取引数量は11.1万ト対前年同月(▲34%)となった。
年産平均36,310円/60kgと**過去最高価格水準**を維持している。

(2)福島県：年産平均で**中通コシ36,345円/60kg（前年比135%）ひとめぼれ36,095円/60kg
（前年比137%）**となっている。

↓

一方スポット相場で2万円/60kg（置場渡）代を切るような急落する銘柄も出てきている。

2. 主食用米集荷・契約・販売状況（1月末）

(1)全 国：集荷 2,564千玄米ト(前年比 117%) 契約進捗（前年比106%）販売進捗（**前年比81%**）

(2)福島県：集荷 162千玄米ト（前年比131%）契約進捗（前年比150%）販売進捗（**前年比69%**）
集荷・契約進捗は堅調であるが、**需給緩和懸念により販売進捗鈍化が顕著**

↓

結果、需給緩和基調なのに米価高といった過去に例を見ない歪な状況となっている。

3. 米の消費動向（米穀機構発表1月分）

一人一か月当たりの精米消費量は対前年同月比▲6.6%と減少傾向が続いている。

米価高を起因とする消費減（特に家庭内消費）の影響が顕著

4. 民間流通在庫（1月末）5,000ト超の集荷業者・4,000ト超の卸売業者が対象

全国の1/末の民間在庫量は321万ト（対前年同月差+92万トのうち備蓄米0.1万ト）とR4の
326万トに次いで高い水準となっている。**うち当福島県は22.9万ト**となっている。

**なお、政府備蓄米の在庫は32万トと基準在庫100万トを大幅に下回っており、
需給緩和局面の中、3/13に令和8年産買入の入札公告が約2か月遅れでなされた。**

放出済の入札備蓄米の買戻しを含め、政府動向が注視されている。

5. 主食用米需給動向及び価格動向（2月時の現状DI及び3か月見通し・店頭価格等）

(1)需給動向：前回調査比+2ポイント、向こう3か月の見通し（今月の数値26ポイント）
と在庫水準高位により「**需給が緩和する**」見通しが継続している。

(2)米価水準：前回調査比±0ポイント、向こう3か月の見通し（今月の数値26ポイント）
と流通量増による販売不振から「**安くなる**」見通しが継続している。

(3)店頭価格：3/2週**平均価格は4,013円/5kg**うち**ブレンド米 3,755円/5kg**（前週比
▲1.1%・▲40円）と損切販売等により値下トレンドが徐々に進行している。

6. 令和7年産水田作付面積・収穫量（令和7年12月12日発表）

(1)主食用米作付面積・収穫量・作況単収指数（最終確定）

①全 国：**136.7万ha（前年+10.8万ha）** 収穫量**7,468千ト** 作況単収指数**102**

②福島県：**67,000ha（前年+ 1.05万ha）** 収穫量 **382千ト** 作況単収指数**102**

③福島県では米価高を背景に**主食用米が非主食米（特に飼料用米）から転換増**

【需給動向・令和8年産主食用米生産動向・政府の動き】

1. 主食用米等の需給見通し

(1) R7/8需給見通し（令和7年10月公表基本指針による）

令和8年6月末民間在庫見通し 玄米215～229万ト 精米191～205万ト

(2) R8/9需給見通し（ ）

令和9年6月末民間在庫見通し 玄米215～245万ト 精米191～220万ト

(3) 令和8年産の主食用米の生産動向（令和8年1月13時点の政府の生産目安推測値）

面積1,343千ha(前年実績差▲24千ha) 数量724万t(政府提示需要量711万t差+13万t)

(4) 上記(3)の令和8年産目安推測値を加味した民間在庫見通し（独自試算）

令和9年6月末民間在庫見通し 玄米215～258万ト 精米191～232万ト

(5) 民間貿易による輸入状況（枠外関税341円/kg部分）

2025年12月累計の枠外輸入数量が96,834トと前年1,015トの95倍の見込との財務省発表需給緩和見通による米価下落懸念より「尻すぼみ感」あるものの過去最高を記録



これまでの適正在庫水準 玄米180～200万ト から見れば一段と需給緩和が見込まれ

当面の「放出済備蓄米59万ト買戻し」「令和8年産備蓄米21万ト買入(4/14入札)」等政府の動き（買入価格・時期等）、民間貿易による輸入米増の状況を注視する必要

2. 政府の動き

(1) 米の安定供給に係る 短期的な対応策

①在庫量、出荷、販売取扱量等の流通情報の把握等実態把握強化（届出対象拡大）

②届出事業者等の違反抑制と是正のための的確な情報把握の担保

③生産量減少以外の不足要因への対応を目的に食糧法改正し 備蓄の定義（目的）見直し

④ 民間備蓄の官民役割分担と運営方法を民間事業者意見を踏まえ 具体的仕組構築

(2) 食糧法見直し（上記(1)を踏まえ）

①流通実態の把握強化（届出対象拡大・定期的在庫報告・罰則引上げ措置）

②米の備蓄（備蓄目的見直し・民間備蓄運用・放出指示・勧告公表等）

③ 生産調整に関する規定削除・需要に応じた生産促進（生産者努力義務・情報提供等）

(3) 令和8年度関連予算（早期成立に向け2月末現在特別国会審議中となっている）

①水田活用予算（概算決定額2,752億円・↗は予算規模の増減を示す）

生産性向上（スマート農業・多収品種・直播・土壌診断等）や高収益作物等の定着

「コメ新市場開拓等促進事業↗（輸出用米・加工用米・米粉用米・酒造好適米）」

「畑地化促進↘」「飼料用米↘」

②共同利用施設整備支援

「強い農業づくり総合支援交付金↗」「新基本計画実装・農業構造転換支援事業↗」

(4) コスト指標（令和8年4月本格施行予定・3月6日米穀機構が概要を発表）

米の取引価格を決める際に、生産・集荷・流通に掛かる合理的なコストを見える化する目安としてこれまで「コスト指標等作成委員会」で検討してきた概要を3月6日に米穀機構が発表した。生産規模1ha～3ha（全体の約90%）かつ他産業を参考にした労働費単価にて算定、利益は未加算のため取引価格ではないことに留意。

生産段階コスト 20,437円/60kg玄米（税込）

精米段階コスト 2,811円/5kg精米